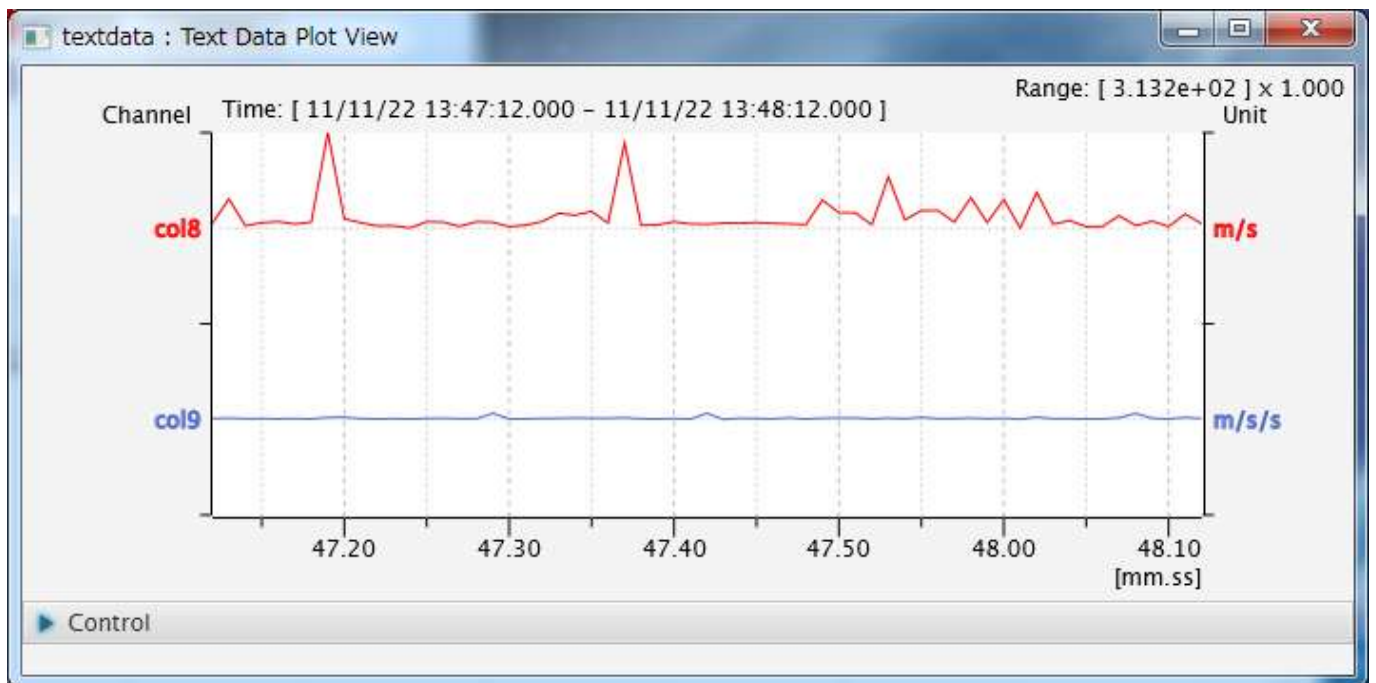


地震計アレイデータ統合表示システム
テキストデータ表示プラグイン

TextDataPlot プラグイン

取扱説明書



目次

1. 概要.....	1
2. インストール.....	2
2.1. ご注意.....	2
2.2. 使用環境.....	2
2.3. インストール方法.....	2
2.4. 起動方法.....	2
3. 設定画面.....	3
3.1. 設定画面ダイアログ.....	3
3.1.1. Text Check.....	6
3.2. CSV 形式ファイル.....	6
3.3. チャネル設定.....	7
3.3.1. チャネル追加 (Add).....	7
3.3.2. チャネル削除(Delete).....	9
3.3.3. チャネル順序変更(Up、Down).....	9
3.3.4. File メニュー.....	10
4. 表示画面.....	11
4.1. 表示画面.....	11
4.2. Control ボックス.....	12
4.2.1. Time Axis タブ.....	12
4.2.2. Y Axis タブ.....	14
4.3. マーカー.....	15
4.3.1. マーカーとは.....	15
4.3.2. アクティブ時のマーカー.....	15
4.3.3. パッシブ時のマーカー.....	16
4.4. 各種動作.....	16
4.4.1. SyncActive モード.....	16
4.4.2. ドラッグによる表示範囲指定.....	16
4.4.3. 表示ウィンドウ.....	17
5. ライセンス.....	18

1.概要

本アプリケーションは、SeisArray のプラグインソフトウェアであり、データを羅列表記した CSV 形式のテキスト情報を元に時系列データを生成しプロット表示することが出来ます。このプラグインはアクティブ、パッシブの両方で動作可能です。

SeisArray プラグイン機能対応表

アクティブ	パッシブ	オンライン	オフライン
○	○	×	○

ファイル名

項目	ファイル名
プラグインファイル名	TextDataPlot.jar
設定ファイル名	名称_TextDataPlot.xml 名称は、SeisArrayで指定された Name

プラグイン名 (SeisArray の Type で表示される名称)

TextDataPlot

特長

- JavaFX で作成したアプリケーションであるため、Java8 (1.8) が動作する OS 上であれば動作させることが可能です。
- X 軸を時刻軸とした複数データを最大 10 チャネル表示する事ができます。
- 時刻は設定画面から開始時刻、ステップ間隔を指定する事により、先頭行を開始時刻とし、移行ステップ間隔ずつずらした時刻をそのデータの時刻としてデータを取り込みます。
- スクロールバーによる時刻移動、ボタンによる時刻移動、表示時間の拡大、縮小、再生機能による時刻移動等の多くの時刻指定を行うことが出来ます。
- 値と色の組み合わせを柔軟に指定する事が出来ます。

特記事項

- 本マニュアルの内容は、予告なしに変更することがあります。
- 本アプリケーションを使用した事による、いかなる損害も保証致しかねます。自己責任でご使用頂けますようお願い致します。

2.インストール

2.1. ご注意

本アプリケーションにインストーラはありません。手作業にてインストールして頂く必要があります。

2.2. 使用環境

本製品は以下の環境での使用を確認、推奨しています。

CPU	x86、x64形式プロセッサ 1GHz以上
RAM	4GByte以上
OS	Windows10/8.1/7、CentOS7
必要環境	Oracle Java1.8

2.3. インストール方法

1. Java のインストール

Oracle Java1.8 をインストールしていない場合、以下のサイトから環境にあった Java をダウンロードしてインストールを行って下さい。

<https://www.java.com/ja/>

2. アプリケーションのインストール

SeisArray インストールフォルダ内の plugin フォルダに、TextDataPlot.jar をコピーして下さい。

2.4. 起動方法

SeisArray を起動し、パッシブのプラグインで、TextDataPlot を選択してください。その上で Setting を選択すると、設定画面が表示されます。設定終了後、SeisArray で View から Open All を選択すると表示画面が表示されます。

3.設定画面

3.1. 設定画面ダイアログ

SeisArray から TextDataPlot を選択した部分の Setting をクリックすると、下記画面が表示されます。

textdata : Text Data Plot Setting

Filter Use Encoding UTF-8

Text Data File Path: E:\final.mobius-auto\finaltest.txt

Separate Char: Text Check

Start Time: 11/11/21 13:48:12

Step Time: 1 Second

Last Time: 11/11/22 13:48:12 SyncActive

Time Length: 1 Minute

Y Range: Auto Magunification: 1.0

Max: 0.1

Zero Center Min: -0.1

Baseline ライト・グレー

Marker Position:

Marker Color: マゼンタ

Channel Setting Up Down Delete Add

ColNum	Name	Color	Action
0008	col8	#FF0000	setting
0009	col9	#4D66cc	setting

OK Cancel

この内、Marker Position はアクティブ時しか設定出来ません。

設定項目は次の通りです。

設定項目	設定内容
Text Data File Path Encoding Separate Char Text Check	<p>数値を羅列したCSV形式のテキストファイルを指定してください。また、右上にEncoding選択ボックスが表示されますので、テキストのエンコーディングを指定して下さい。</p> <p>Separate Charには、CSVの区切り文字を指定します。デフォルトはスペースとなっています。（表示上何も表示されていないように見えますが、カーソルキーで前後するとスペースがあることがわかります）</p> <p>Text Checkボタンは、上記で設定したファイルを読み込み、区切り文字で分解した際の、カラム数を表示します。設定が正しいかどうかを検証するために使用します。</p> 
Start Time Step Time	<p>CSV形式データの行に対し、タイムスタンプを付加する為の設定です。Start Timeには開始時刻、Step Timeは1行毎にどれだけ時刻を進めるかを指定します。Step Timeは数値と単位の組み合わせで、単位は右の選択ボックスから選択してください。</p> <p>開始時刻は、YY/MM/DD hh:mm:ssの形式で入力して下さい。</p> <p>例えば、Start Timeを11/11/21 13:48:00、Step Timeを1秒とした場合、CSVの1行目の時刻が11/11/21 13:48:00となり、2行目は11/11/21 13:48:01、3行目は11/11/21 13:48:02という様にStep Timeずつ未来のタイムスタンプが付加されます。</p>
Filter Use	<p>チャンネルにフィルタ計算を適用する際にチェックします。チェックがある場合、表示する際に時刻レンジに含まれる全てのデータを過去から読み込みフィルタを適用していくため、本機能を使用する際には時刻レンジにご注意下さい。長時間のデータを対象とした場合、非常に多くのメモリと時間を要し、メモリが足りない場合には動作が不安定になることが有ります。</p>
Last Time	<p>初期表示の最終時刻を指定します。日時は、YY/MM/DD hh:mm:ssの形式で入力して下さい。Online時は指定できません。</p>
Sync Active	<p>アクティブ画面と連動して表示を切り替える際にチェックして下さい。チェックした場合、Last TimeとTime Lengthは無効になります。</p>
Time Length	<p>画面表示時間長を指定します。Last Timeから、過去どれくらいの時間を画面表示するの指定になります。表示時間の単位は、右の選択ボックスから選択し、テキストボックスにはその単位での数値を入力して下さい。</p>

Y Range 表示形式 Zero Center Magnification Max Min	<p>Y軸の表示形式や、倍率、表示レンジを指定します。Y Rangeの下を選択ボックスは表示形式をAuto、Manual、AutoByCHから選択します。</p> <p>Auto: 表示する全チャンネルの最大値、最小値を用いて、全チャンネル同一スケールで表示します。</p> <p>Manual: Max、Minが指定可能となり、指定レンジ固定で表示します。</p> <p>AutoByCH: 表示するチャンネル毎の、最大値、最小値を用いてチャンネル毎のレンジで表示します。</p> <p>Magnificationは、表示レンジの倍率です。1が通常の倍率になります。レンジの倍率なので、2にすると表示レンジが2倍になり、表示される波形は半分に縮小されます。0.5にするとレンジが半分になるので、2倍の大きさに波形が表示される事になります。</p> <p>また、Zero Centerチェックボックスがチェックされている場合は、最大値、最小値の絶対が大きい方×2のレンジで表示を行い、0が中心になるように表示します。</p> <p>Baselineチェックボックスがチェックされている場合は、0の位置に点線を指定されたカラーで表示します。</p> <p>これらの表示形式は、初期値であり、表示画面のControlのY軸タブから変更が可能となっています。但し、表示画面上で設定した値は、設定値には反映されません。</p>
Marker Position	<p>マーカーの位置を相対時間で指定します。アクティブの場合のみ指定出来ます。マーカーは表示している最終時刻から、指定時間過去の位置に設定されます。</p> <p>設定しない場合は、-1を指定して下さい。</p> <p>この設定値は、初期値です。アクティブの場合、表示画面上でクリックする事により、マーカー位置を指定出来ます。</p>
Marker Color	<p>マーカーの色を指定します。アクティブの場合は指定した位置に、パッシブの場合、アクティブで指定した時刻が表示時間内にある場合に、指定した色で縦にマーカー線が表示されます。</p>
Channel Setting	<p>表示チャンネルを指定します。指定方法については、チャンネル設定の項を参照して下さい。</p>

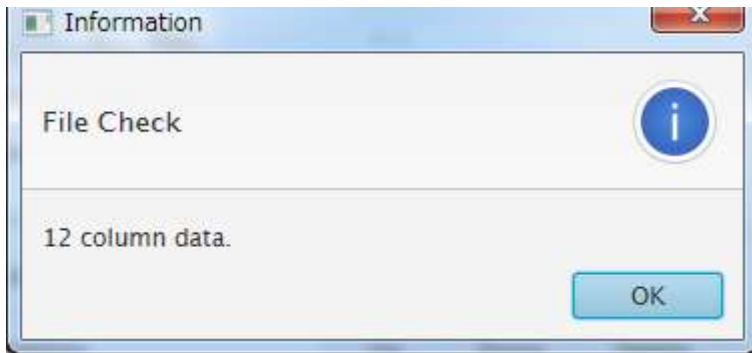
Cancel をクリック、もしくは Window の X をクリックすると設定内容を破棄し、設定画面を終了します。

OK をクリックすると、入力内容をチェックし、問題なければ設定を反映して画面を終了します。問題がある場合には、問題のある部分のエラーをダイアログで表示し、設定画面は閉じられません。

注) 設定は反映されますが、メモリ上に反映されているだけです。SeisArray で保存を行わずに SeisArray を終了した場合は、破棄されますのでご注意ください。

3.1.1. Text Check

Text Checkボタンは、Text Data File Pathで指定したファイルをEncodingで指定した文字形式で読み込み、Separate Charで指定された区切り文字で分解した際の、カラム数を表示します。設定が正しいかどうかを検証するために使用します。



表示されたカラム数が想定と異なる場合には、指定が間違っている可能性が高いので再度入力をチェックしてください。

入力項目は、検索する前にチェックされ、入力不正がある場合には、ダイアログボックスにて不正箇所を表示しますので、修正を行って下さい。

3.2. CSV 形式ファイル

CSV形式のテキストファイルで、区切り文字で区切られた複数の数値データが複数行で表記されたファイルです。デフォルトの区切り文字はスペースとなっていますが、カンマセパレートの場合には、Separate Charに、, (カンマ) を指定してください。1行が1つの時刻を示します。

表示データは、区切り文字で示されたデータの何番目（何カラム目）のデータを使用するかをチャンネルとして定義して表示します。

3.3. チャネル設定

表示チャネルは、CSVの何カラム目かや、表示色やフィルタ等の付加情報を行います。

3.3.1. チャネル追加 (Add)

Text Data Plot Setting の Channel Setting の右にある Add ボタンをクリックすると、下記画面が表示されます。

画面左側の設定項目は次の通りです。

設定項目	設定内容
Column Num	CSVのカラム番号を0～の番号で入力して下さい。重複するカラム番号を指定した場合は、OKをクリックした際の入力チェックで弾かれます。
Name	チャネル名を入力して下さい。この入力値は、表示画面のY軸に表示されるチャネル名称となります。9文字以上はチャネル名の表示がはみ出し一部表示されない場合がありますので、ご注意下さい。
Unit	データ単位を入力して下さい。例) 速度ならm/s、加速度ならm/s/s等
Coefficient	データに掛ける係数を入力してください。特に必要ない場合にはデフォルトの1.0のままにしてください。
Color	表示画面での表示色を指定します。クリックすると選択ボックスが開きます。カスタム・カラーをクリックすると細かな色設定が出来るカスタムカラーダイアログが表示されます。

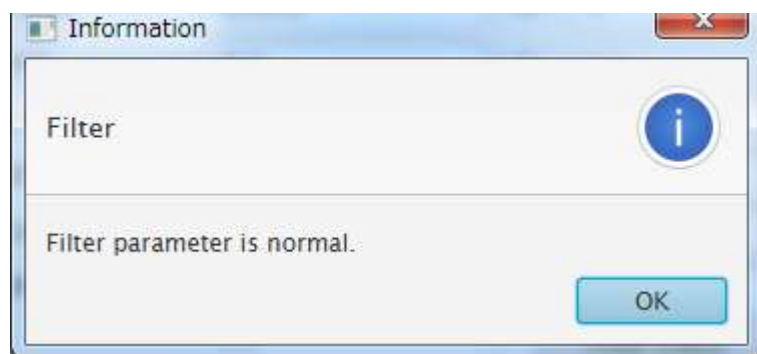
Offset	<p>オフセットキャンセルの方法を選択ボックスから選択します。選択肢は以下の通りです。</p> <p>None: オフセットキャンセルは行わない。</p> <p>Manual: オフセット値を入力する。</p> <p>Center: 最大値と最小値の中間値をオフセット値とする。</p> <p>Average: 平均値をオフセットとする。</p> <p>Median: 中央値をオフセット値とする。データ数が偶数の場合は、中央の2つの平均値が用いられる。</p> <p>オフセット値は実データから引かれて表示されます。</p>
--------	---

画面右側はチャンネルデータ表示時にフィルタをかけたい場合に設定します。

フィルタは Text Data Plot Setting 画面の Filter Use チェックボックスがチェックされている時に適用されます。チェックがない場合は、ここで設定していてもフィルタは適用されません。

フィルタは斎藤フィルタ¹のバターワース型フィルタを用いています。Hz 以外の設定パラメータの選び方についてはこの文献を参照してください。Hz の項目にはこのチャンネルのサンプリング周波数を設定して下さい。選択できるフィルタは、ローパスフィルタ(Lowpass)、ハイパスフィルタ(Highpass)、バンドパスフィルタ(Bandpass)の3種類です。

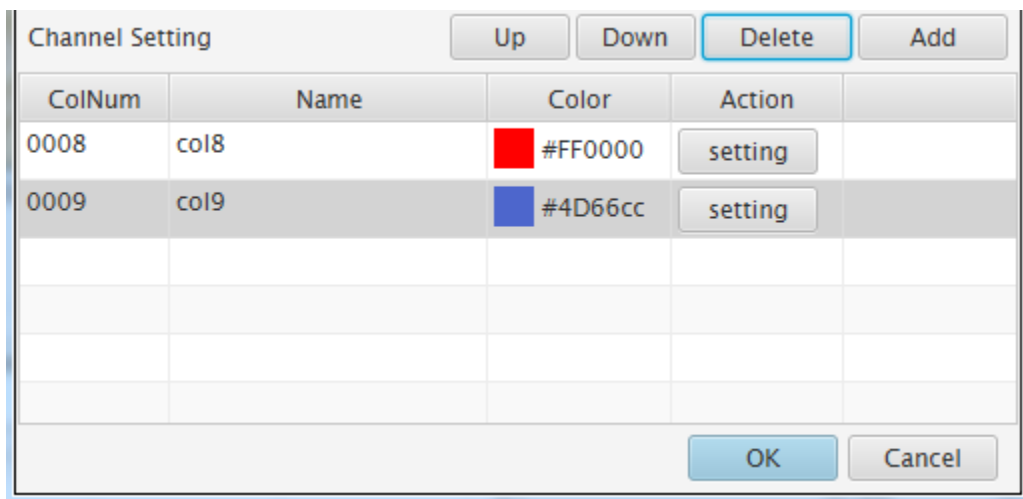
フィルタ設定時は、Filter Check ボタンが有効になり、入力値のチェックが行えます。問題なければ以下のダイアログが表示されます。



チャンネル設定ダイアログウィンドウの Cancel をクリック、もしくは Window の X をクリックすると登録せずにメイン画面に戻ります。

OK をクリックすると入力内容をチェックし、問題なければチャンネル設定ダイアログを閉じ、Text Data Plot Setting 画面に戻ります。Channel Setting の表に登録内容が表示されます。以下は、カラム 8 に col8、カラム 9 に col9 という名称にして登録した時の Channel Setting 部分の表示です。

¹ 斎藤 正徳(1978) 漸化式デジタル・フィルターの 自動設計, 物理探査, 31, 112-135

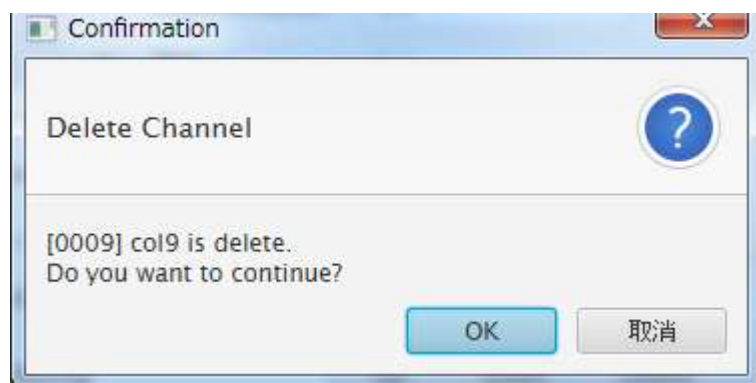


この表の Action 列にある、Setting ボタンをクリックすると登録内容を修正する事が出来ます。修正画面は、チャンネル登録画面と同様です。

チャンネルは最大 10 チャンネルまで登録できます。

3.3.2. チャンネル削除(Delete)

WIN Plot Setting の Channel Setting の表からクリックでチャンネルを選択し、Delete ボタンをクリックするとチャンネル削除の確認ダイアログが表示され、OK をクリックするとチャンネルを削除する事が出来ます。



3.3.3. チャンネル順序変更(Up、Down)

WIN Plot Setting の Channel Setting の表は登録順に並びますが、この並び順が表示画面での並び順になるため、順序を変更したい場合があります。その場合には、順序を変更したいチャンネルを表からクリックで選択後に、Up をクリックで上へ、Down をクリックすると下へ移動する事が出来ます。

3.3.4. File メニュー

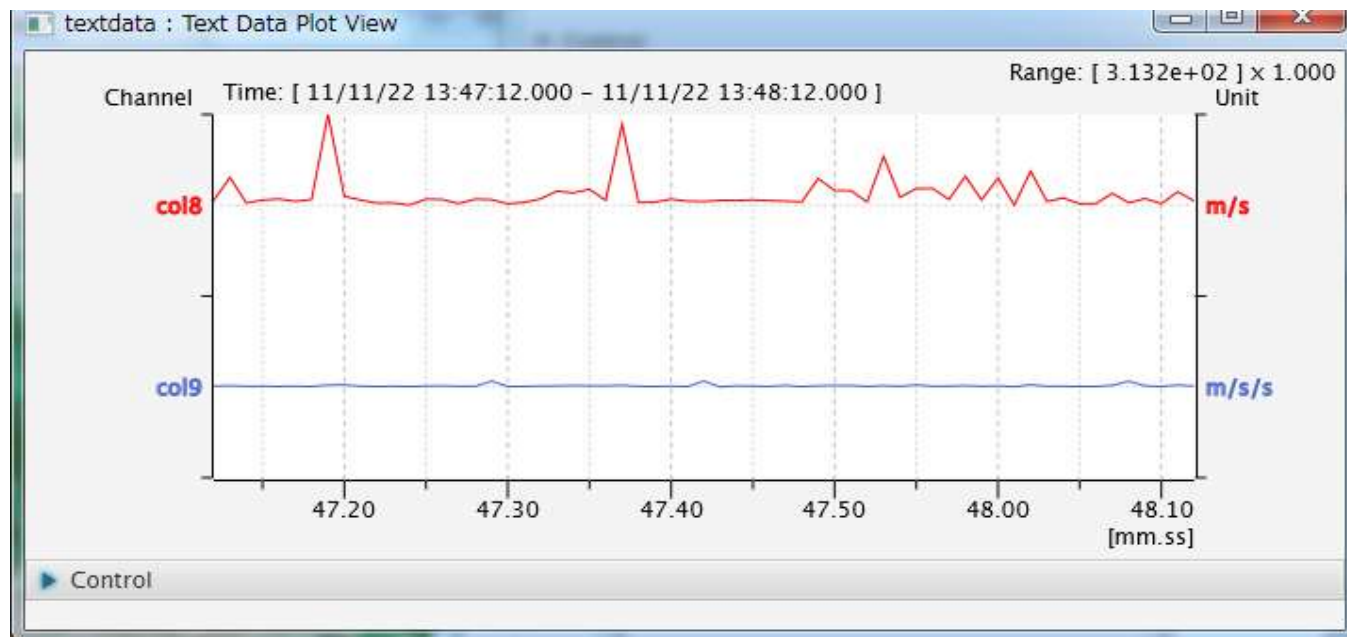
Value Color Bar Setting 画面の File メニューから現在の設定の保存や、設定の読み込みを行うことができます。

項目	内容
Read	既に保存されているValue Color設定ファイルを読み込む場合に使用します。クリックすると、ファイル選択ダイアログが表示されるので、読み込むファイルを選択してOKをクリックして下さい。
Save as	現在の設定をファイルとして保存する場合に使用します。クリックすると、ファイル指定ダイアログが表示されるので、フォルダ、ファイル名を指定して保存して下さい。
Save	現在の設定を上書き保存する場合に使用します。この項目はReadもしくはSave asを行った場合のみ有効となり、ReadもしくはSave asで指定したファイルが上書き対象となります。

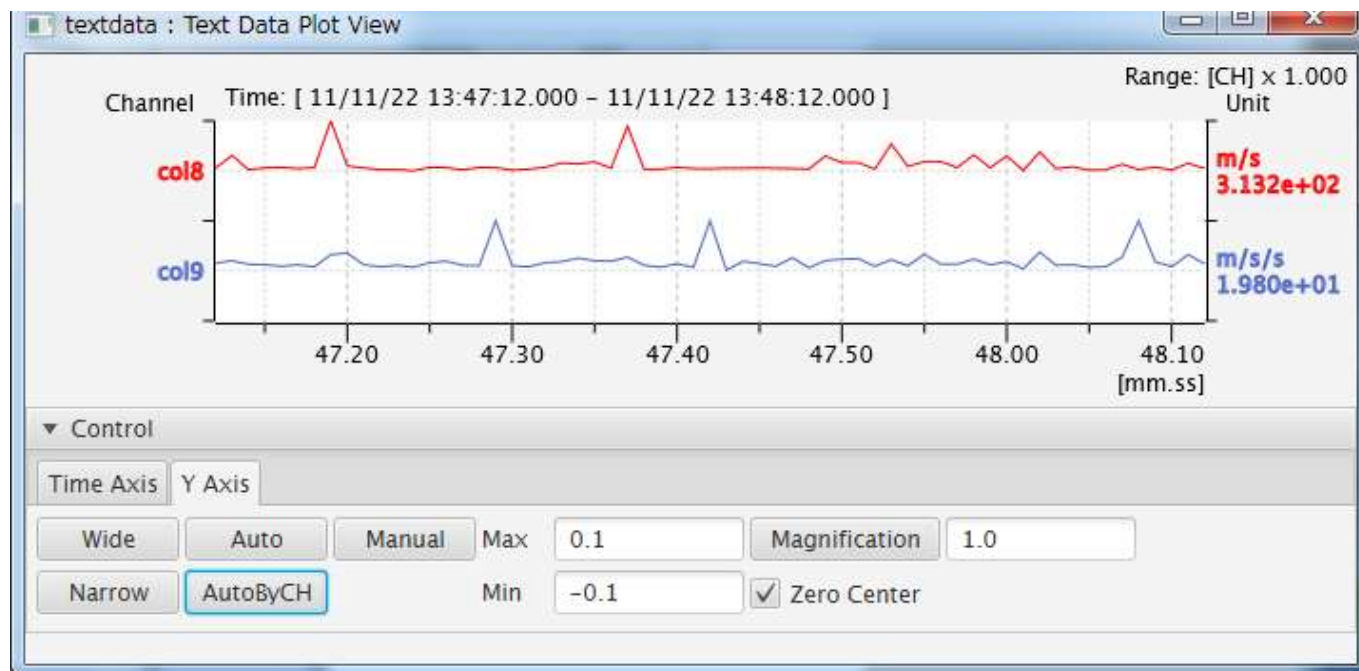
4.表示画面

4.1. 表示画面

SeisArray の View から Open All を選択すると表示画面が表示されます。TextDataPlot の表示画面例を以下に示します。



上記例は、2チャンネル表示で、Y軸はAutoとして表示したものです。Autoの場合、表示する全チャンネルの最大値、最小値を用いて4チャンネル同一のレンジとして表示します。レンジは右上のRange:[]の括弧内に表示されています。それに続くx1.000はレンジの倍率を示し、現在1倍で表示されている事を表します。



上記例は2チャンネル表示で、Y軸はAutoByCHとして表示したものです。この場合、チャンネル毎のレンジがチャンネルの単位の下に表記され、右上の表記がRange:[CH]となります。

画面上部のTime:は表示されている時間軸の範囲を示しています。

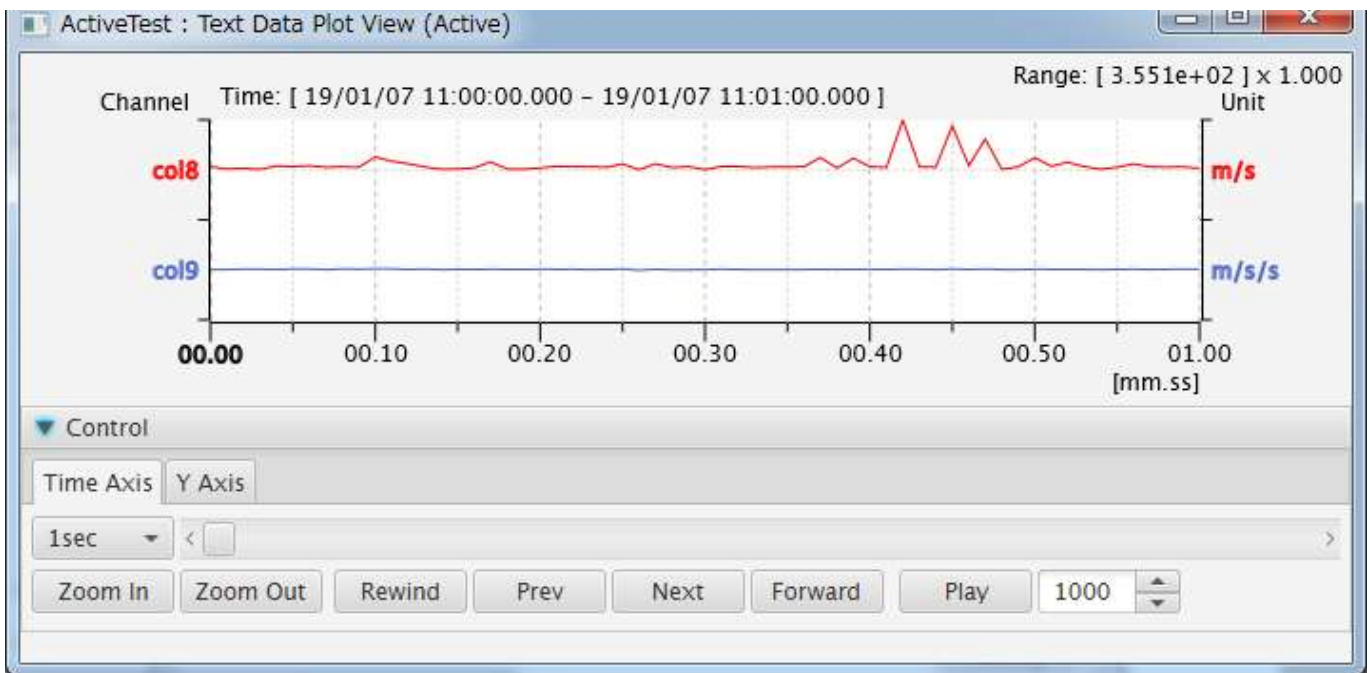
左 Y 軸の Channel の下にはチャンネル名称が表示されます。右 Y 軸の Unit の下にはチャンネルの入力振幅単位が表示され、AutoByCH の場合にはチャンネル毎のレンジも表示されます。

上記 2 例では、Col8 の物理量の方が大きいため、Auto では Col8 のレンジで表示され Col9 は線になってしまっていますが、AutoByCH ではチャンネル毎にレンジが異なるため全てのチャンネルが波形として見えている事がわかります。つまり、同一レンジで見たい場合には Auto を、それ以外では AutoByCH をといった方式を選ぶと見やすい表示となります。

これらのグラフ表示形式や、表示時刻、表示時間長は、画面下部の Control ボックスから操作する事が出来ます。但し、表示画面上で行う操作は一時的なもので設定値には反映されません。つまり一度閉じて再度表示すると初期状態に戻ります。永続的に変更したい場合には、設定画面上で設定を変更して下さい。

4.2. Control ボックス

表示画面下部の▶Control バーをクリックすると、Control ボックスが表示されます。

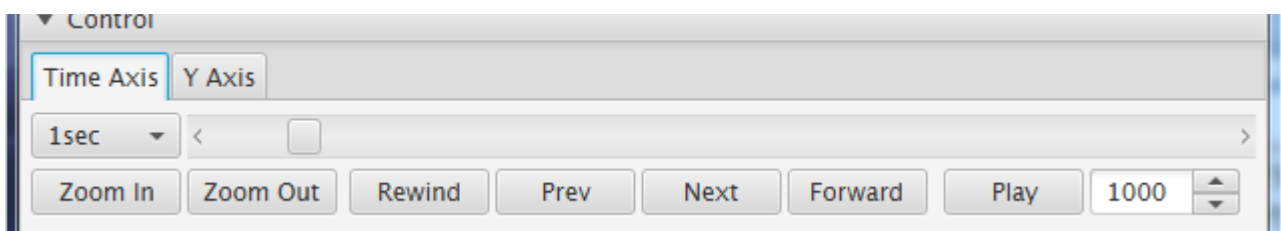


Control ボックス内には、X 軸操作用の Time Axis タブ、Y 軸操作用の Y Axis タブがあります。それぞれ、タブのタイトル部をクリックするとタブを切り替えることが出来ます。

Control ボックスは、▼Control バーをクリックする事で閉じる事が出来ます。

4.2.1. Time Axis タブ

Time Axis タブは、画面上の X 軸つまり時間軸を操作する事が出来ます。オンラインモード時は X 軸は最新時刻に固定されるため、操作不可となっています。



操作項目は以下の通りです。

項目	意味
操作単位	<p>左上の選択ボックスで、操作する時間単位を選択します。ここで選択した時間単位は他の項目で操作した際の基準単位となります。選択出来る時間単位は以下の通りです。</p> <p>1ms、10ms、100ms、 1sec、10sec、 1min、10min、 1hour、6hour、 1day、1week、1month、1year</p>
スクロールバー	<p>スクロールバーを操作する事で表示時刻を移動する事が出来ます。</p> <p>右端、左端の矢印をクリックした際には、操作単位1つ分時刻を移動します。</p> <p>バー部分のクリック（ブロック移動）では、現在選択されている操作単位の次の操作単位で時刻を移動します。</p> <p>ドラッグ移動はミリ秒単位で無段階に移動します。</p>
Zoom In	<p>表示時間長を操作単位1つ分短くします。波形を細かく見たい場合に使用します。表示最終時刻は維持されたまま表示時間長が短くなるので、再過去の表示時間が未来方向に動く様な動作となります。</p> <p>表示時間長が操作単位1つ分より短い場合には何も行きません。</p>
Zoom Out	<p>表示時間長を操作単位1つ分長くします。波形を細かく見たい場合に使用します。表示最終時刻は維持されたまま表示時間長が長くなるので、再過去の表示時間が過去方向に動く様な動作となります。</p>
Rewind	<p>表示時刻を過去方向に、現在選択されている操作単位の次の操作単位で移動します。</p>
Prev	<p>表示時刻を過去方向に、現在選択されている操作単位で移動します。</p>
Next	<p>表示時刻を未来方向に、現在選択されている操作単位で移動します。</p>
Forward	<p>表示時刻を未来方向に、現在選択されている操作単位の次の操作単位で移動します。</p>
Play Stop	<p>アクティブ時のみ操作出来る項目で、Playの右で指定されるミリ秒毎に、マーカーを操作単位1つ分ずつ未来に移動する機能を持ちます。</p> <p>マーカーが移動する度にパッシブにマーカー時刻が送られる為、マーカーに連動してパッシブが変化する様をリアルタイムの様に再現出来ます。間隔のミリ秒を変更する事で早送りやスロー再生の様な操作も可能です。</p> <p>Playをクリックすると再生が始まり、マーカーが表示最終時刻に達すると再生が終了します。再生中はボタンの表記がStopに変わり、これをクリックする事で途中で再生を中断する事が出来ます。</p>

時間移動時には、移動先のまだ読み込んでいないファイルを順次読み込むため、時間がかかります。また、読み込んだデータはメモリに保持される為、消費メモリが増えていきます。消費メモリについては別項目で説明します。

4.2.2. Y Axis タブ

Time Axis タブは、X 軸を操作する事が出来ます。オンラインモード時は X 軸は最新時刻に固定されるため、操作不可となっています。



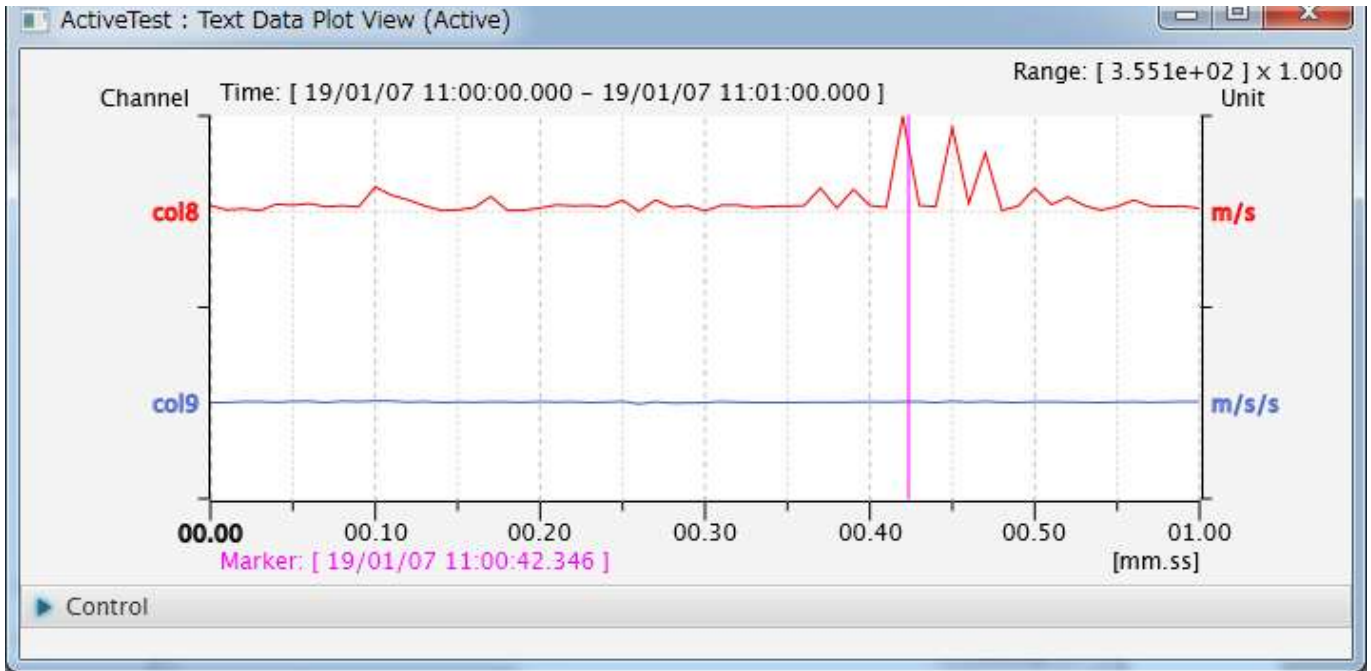
操作項目は以下の通りです。

項目	意味
Wide	表示レンジを拡大します。クリックする度にレンジの倍率を $\sqrt{2}$ づつ増やします。レンジの倍率なので、例えば2であれば、レンジは2倍になり、表示される波形は半分に縮小されます。つまり波形から見ると動作は逆になります。 現在の倍率は、画面右上のRangeのxの後に表示されています。
Narrow	表示レンジを縮小します。クリックする度にレンジの倍率を $\sqrt{2}$ づつ減らします。レンジの倍率なので、例えば0.5であれば、レンジは半分になり、表示される波形は2倍に拡大されます。つまり波形から見ると動作は逆になります。 現在の倍率は、画面右上のRangeのxの後に表示されています。
Auto	表示する全チャンネルの最大値、最小値を用いて、全チャンネル同一スケールで表示します。 この際、レンジ倍率は1にリセットされます。
AutoByCH	表示するチャンネル毎の、最大値、最小値を用いてチャンネル毎のレンジで表示します。 この際、レンジ倍率は1にリセットされます。
Manual Max Min	右側にあるMax、Minで指定された値を使用して、固定レンジで表示します。例えば、Maxが1、Minが-1の場合、レンジは2となり、全チャンネル2のレンジで表示される事になります。 この際、レンジ倍率は1にリセットされます。
Magnification	レンジ倍率を右のテキストボックスで指定される値に設定します。
Zero Center	Zero Centerチェックボックスがチェックされている場合は、最大値、最小値の絶対が大きい方 x 2のレンジで表示を行い、0が中心になるように表示します。 チェックされていない場合は、最大値、最小値の差をレンジとして表示します。 この項目はAuto、AutoByCHいずれかをクリックした時にのみ反映されます。チェックを変更した時点では適用されません。またManual時には無視されます。

4.3. マーカー

4.3.1. マーカーとは

マーカーは表示画面上では、設定画面の Marker Color で指定された色でグラフ画面上に縦線で表示され、画面下部に同じ色でマーカー時刻が表示されます。



この例では、マゼンタで描画されている縦線と、Marker から始まる時刻をマーカーと呼んでいます。

マーカーはアクティブ時とパッシブ時では動作が異なります。それぞれの動作について以下の項で説明します。

4.3.2. アクティブ時のマーカー

アクティブ時は、マーカーは画面上で操作する事ができます。

初期表示状態は、設定画面の Marker Position で定義されます。Marker Position は表示最終時刻からの相対時間を示しており、0以上の値が定義されている場合には、最終表示時刻から定義時間過去の位置にマーカーが表示されます。Marker Position が-1の時は、マーカーは表示されません。

画面上のグラフ部分をクリックするとその位置にマーカーが移動します。初期状態でマーカーが表示されていない状態では、クリックによりその位置にマーカーが表示されます。またマーカー位置が変わる度にその都度マーカー位置の変更イベントを SeisArray に上げており、SeisArray はその時刻をパッシブの画面に通知する為、パッシブが連動するものであれば、連動して画面が変更されます。

表示時刻を Control ボックスを用いて移動したりして最終表示時刻が変更された場合にも、相対時間は維持されるので、画面上のマーカー位置は変わりません。つまり、一分未来の表示に切り替えた場合、マーカー時刻も連動して1分未来になります。

アクティブ時は、Control ボックスの Time Axis タブにある再生機能 (Play) が有効になります。この機能では、マーカー位置を自動的にずらしていくことができます。Play ボタンをクリックした時に再生機能が開始され、Play の右にあるミリ秒毎に Time Axis タブの左上の操作単位時間未来方向にマーカーを移動して行きます。再生は最終表示時刻つまりグラフ右端に達すると終了します。

4.3.3. パッシブ時のマーカー

パッシブ時は、マーカーは画面上で操作する事は出来ません。

パッシブ時は、アクティブから指定された時刻が現在表示している時間範囲内である場合のみマーカーを該当する時間の位置に表示します。表示時間外の場合はマーカーは表示されません。

4.4. 各種動作

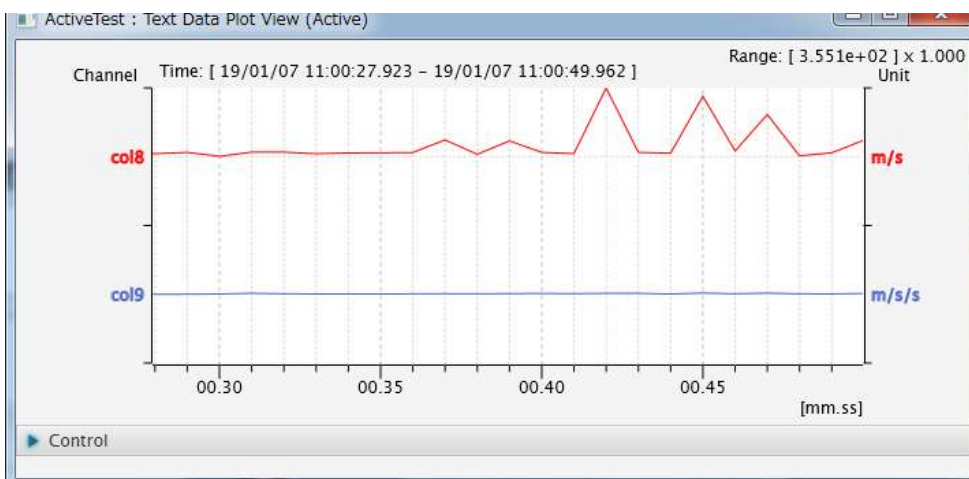
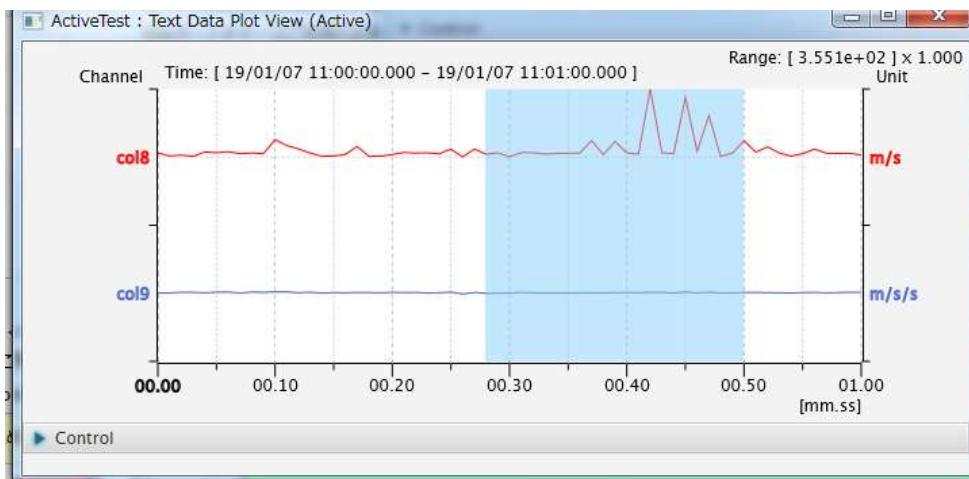
4.4.1. SyncActive モード

設定画面にて、Sync Active がチェックされている場合、アクティブ画面に連動して表示画面が更新されます。Control パネルにて表示時刻や表示範囲を変更する事は可能ですが、アクティブ画面の表示時刻や範囲を変更するとそれに合わせて再表示されますので、ご注意ください。

Sync Active がチェックされていないければ、アクティブ画面と関係なく独立した時刻範囲で表示されます。

4.4.2. ドラッグによる表示範囲指定

アクティブ時の表示ウィンドウでは、マウス操作で表示時刻範囲の指定を行うことができます。表示グラフ内で左クリックしたままドラッグするとドラッグ範囲が水色で塗りつぶされたように表示されます。表示したい範囲の終点でマウスを離すと、ドラッグされた範囲を表示範囲として再表示されます。



上図がドラッグしている状態で、下図がドラッグ終了時の状態です。

また、この拡大状態から更にドラッグして範囲を絞っていくことも可能であり、その状態から右クリックをすると一つ前の状態に戻っていきます。

4.4.3. 表示ウィンドウ

表示ウィンドウは、マウス操作でウィンドウの大きさ変更、位置移動を行えます。大きさと配置位置は、SeisArray の設定保存 (Save、Save as) により保存され、次回表示時にその位置が復元されて表示されます。

5.ライセンス

本ソフトウェアは、フリーのソフトウェアとして公開する予定です。

ライセンスは MIT License に則っています。以下にライセンスを示します。

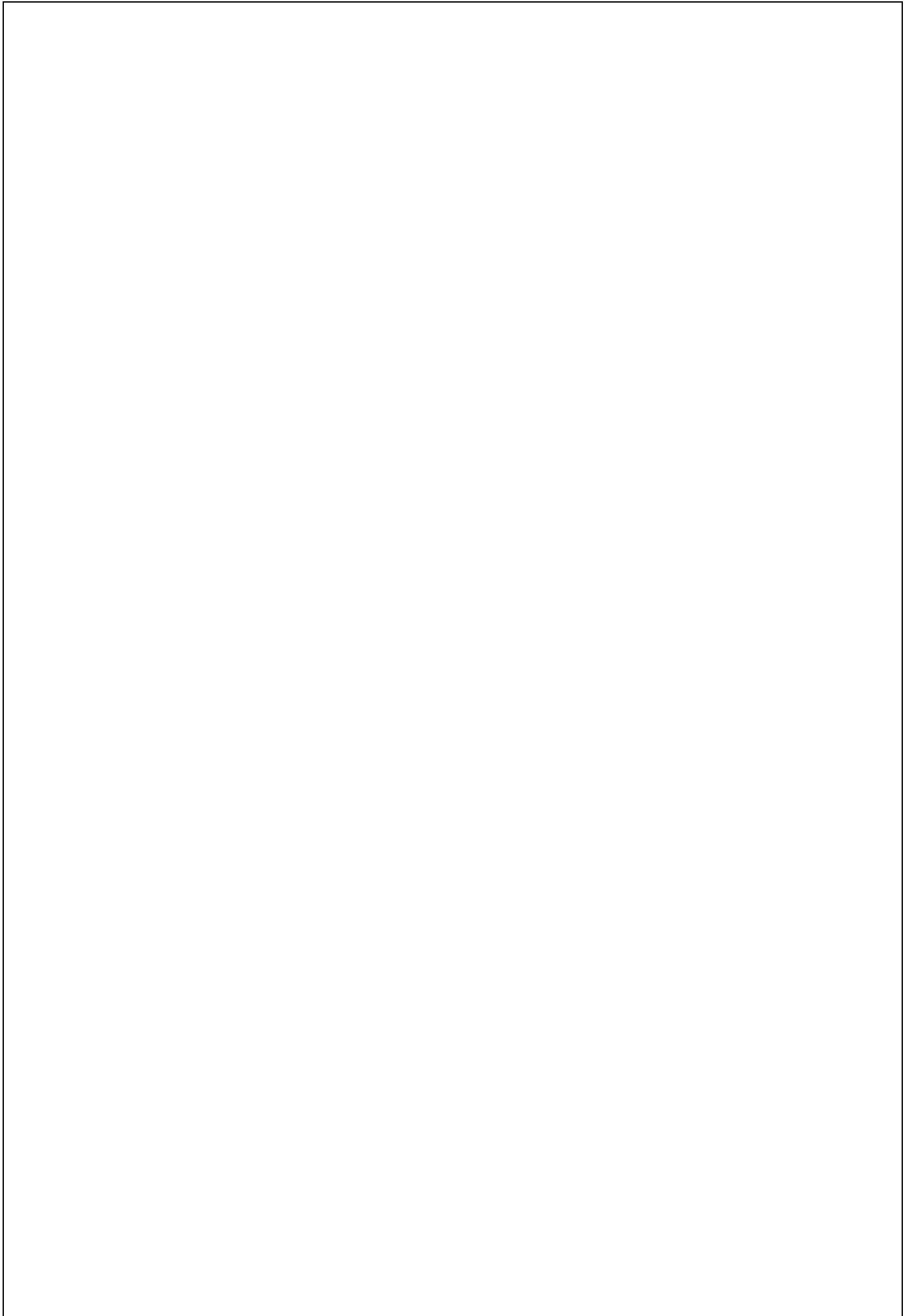
The MIT License

Copyright (c) 2017 Masahiro Iino, Scimolex Corp.

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、頒布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同じことを許可する権利も無制限に含まれます。

上記の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。作者または著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。



TextDataPlot プラグイン取扱説明書 第 1 版

シモレックス株式会社

- 本書の一部または全部の複製を許可なく作成することをかたくお断りします。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。